

小田地区待望の排水ポンプ場が完成！！

地元の方々20名参加

桜の花が満開な3月29日(日)、番匠川小田地区に待望の排水ポンプ場が完成し「竣工式」を行いました。

式には、西嶋泰義佐伯市長、山路茂樹大分県土木建築部長、衛藤征士郎代議士(代理秘書)、九州地方整備局藤澤寛河川部長をはじめ、県議会議員、市議会副議長が来賓として出席くださり、地元の方々(20名)、報道関係者など総数85名が参加して執り行いました。

工事の概要説明で竹下河川副所長が、「国道217号、白木排水ポンプ場(既設)と近接し、新規排水ポンプ場の施工で作業スペースが無い状況で国道の切り替えなど、工事中は地元の方々にご不便とご迷惑をおかけしましたが無事完成することができ、床上浸水の軽減が図られます。」と報告しました。

式典の後に、「始動式」として小田排水ポンプ場の始動スイッチを西嶋佐伯市長、山路大分県土木建築部長、藤澤河川部長の3名の方に押しいただいて排水機場の稼働を確認しました。

H16年、H17年と連続して浸水被害を受けた当地区の方々は、場内見学で「今までは避難する時間がなかったが、これで避難する時間が確保できる。」と言っておられました。

<小田排水ポンプ完成までの経緯>

小田地区はこれまで度重なる浸水被害を受けたことから、平成13年に大分県が建設、佐伯市が管理する1秒間に1.8 m^3 の排水能力をもつ白木排水ポンプ場により被害の軽減を図って参りましたが、平成16年、平成17年と相次ぐ台風による戦後最大規模の出水により、国道や家屋等の浸水被害が発生しました。

このため、当地区に新たに1秒間に5.4 m^3 の排水能力をもつ小田排水ポンプ場を建設し、被害の軽減を図ることとしました。

小田排水ポンプ場は平成20年3月に工事に着手し、今年の3月に完成しました。

<排水ポンプの能力>

1秒間に5.4 m^3 の水を排水する能力とは、小学校の25mプール(長さ:25m・幅:15m・深さ:1.1m)の水を約74秒で空にするほどの能力です。

既設の白木排水ポンプ場と合わせた排水量は、約56秒でプールの水を空にできる能力となりました。

小田排水ポンプ場の完成により、これからは浸水被害も軽減されることで、地域の生活に寄与できるものと確信しております。





平常時の小田地区



H16年9月台風14号内水状況

完成図



<ポンプ規模>

ポンプゲート
 $2.7\text{m}^3/\text{s} \times 2\text{台} = 5.4\text{m}^3/\text{s}$
+
白木排水ポンプ場(既存)
 $0.9\text{m}^3/\text{s} \times 2\text{台} = 1.8\text{m}^3/\text{s}$
計 $7.2\text{m}^3/\text{s}$

完成写真





西嶋佐伯市長の挨拶



始動式の状況



自由見学で排水ポンプ場を見学する参加者

